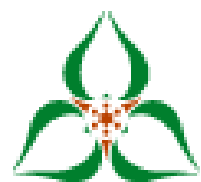


北海道大学病院



北海道大学病院

HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL

施設背景・特徴、診療状況など

北海道大学病院は、北海道大学医学部・歯学部附属の教育・研究施設として、医科・歯科の高度・良質な統合的医療に基づく、全人的医療の提供ならびに全人教育を実践する道内唯一の医療施設として、①患者本位で安心・安全な医療の提供、②人間性豊かで有能な医療人の育成 ③先進的な医療の開発と提供 ④地域医療への貢献を目標としています。

平成19年6月 腫瘍センター発足

平成21年4月 がん診療連携拠点病院の指定

平成21年8月 北海道高度がん診療中核病院の認定

平成25年2月 小児がん拠点病院の指定

平成27年8月 造血幹細胞移植推進拠点病院の指定

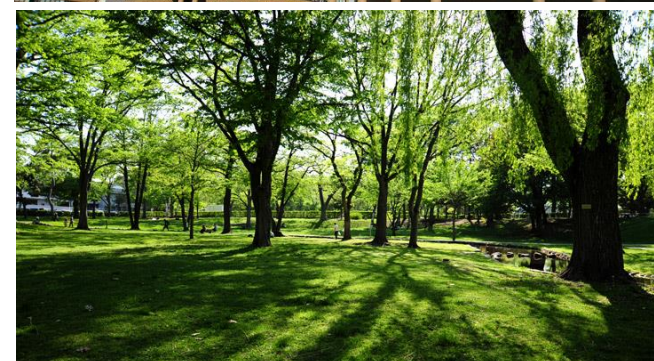
平成30年3月 臨床研究中核病院指定（更新）

平成30年4月 がんゲノム医療中核拠点病院指定

全35診療科 939病床

総のべ外来患者 739,484名（1日平均 3,030.7）

総のべ入院患者数 294,840名（1日平均 807.8）



（平成29年度）

AYA支援チームの成り立ちとチーム構成職種

平成30年10月
腫瘍センター内のチームとして発足

目的

北海道大学病院および北海道地域における
AYA世代がん患者支援のための体制構築を
目指す。

北海道における実態把握とともに課題の提言も行う。

メンバー

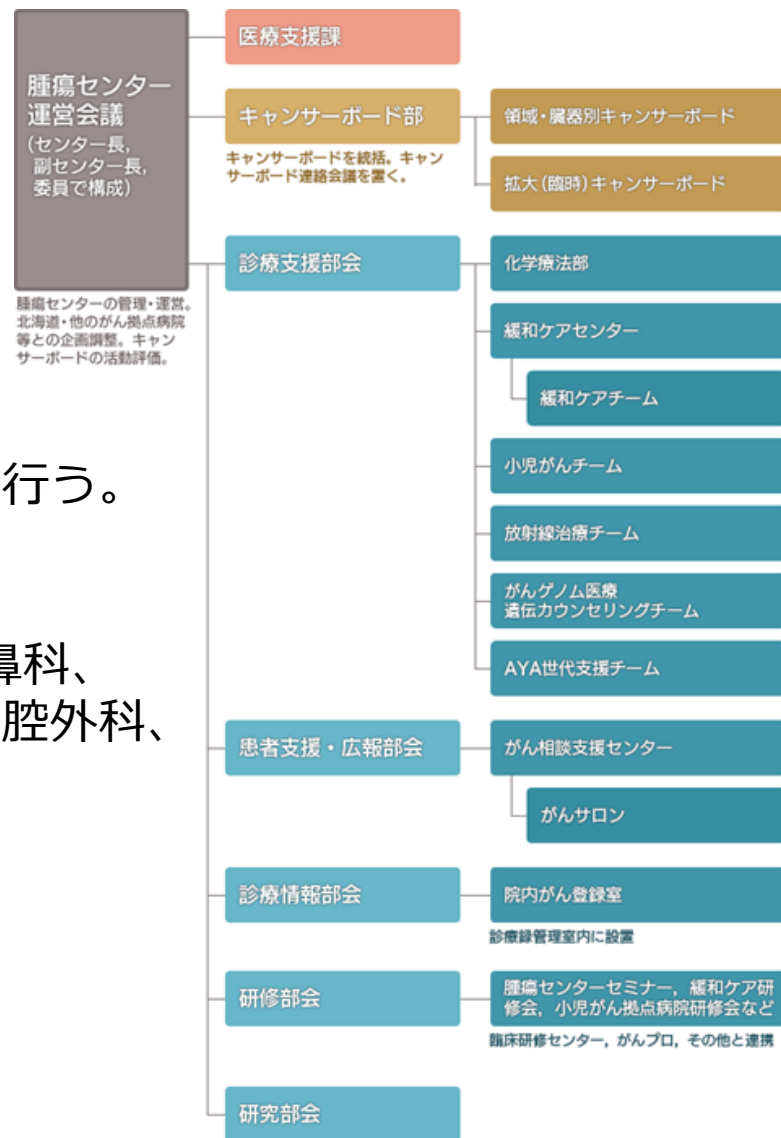
医師 (内科(3)、外科(3)、小児科、婦人科、耳鼻科、
脳神経外科、精神科、放射線科、泌尿器科、口腔外科、
緩和ケアチーム)

看護師(がん診療(2)、緩和チーム、小児診療)

薬剤師(成人、小児)

社会福祉士(成人、小児)

子ども療養支援士



主な活動

AYA世代支援チームの発足

北海道大学病院腫瘍センターのチームとして組織として公式に位置づけ
メンバー確定、活動開始（2018年10月より）
現状のAYA世代のがん患者の問題の共有
各部署の実態調査を依頼

現存する、他のチームや他の事業との共同事業の把握

小児がんチームとの共同事業

生殖細胞保存体制の構築

小児がんサバイバーの長期フォローアップ体制の構築

就学支援（復学支援、院内教育施設としての高校の誘致など）

がん診療連携拠点病院、造血幹細胞移植推進拠点病院としての共同事業
就労支援

医療相談室での相談内容の実態確認

2019年度以降の活動の目標と課題

AYA世代支援チーム活動

- ・腫瘍センター各チーム（化学療法部、緩和ケア、小児がん、がんゲノム、相談支援室など）との連携
- ・現状のAYA世代のがん患者の問題の共有のための各部署の実態調査をふまえた北海道としての課題の抽出
- ・高校/大学、大学卒業~30歳、30歳代、と年齢別に支援を考える

各課題に対する取り組み・提言を行う

- ・相談窓口の明確化、情報提供
- ・教育支援
高校・大学をやめないで継続できる働きかけ。
院内教育施設としての高等学校
- ・就労支援
医療機関のみでできることは限られている。企業や自治体の積極的参加を呼びかけたい。北海道内は大企業が少なく、仕事との両立支援等の体制が不十分な勤務先も多く、仕事を辞めざるを得ない患者が多い。
障害者手帳取得のハードルが高い。
- ・生殖細胞保存体制の構築
- ・長期フォローアップ体制の構築
小児がんサバイバーおよび成人の長期フォローアップ体制の構築
- ・AYAがんの啓発のためのセミナー